

Vol.5

どうなる!?!今後の米国経済 米雇用統計はインフレの道標?

大統領選挙終了後も様々なイベントが予定されており、今後も目が離せない米国の“今”を8回シリーズでお伝えします。

Topic

低水準の失業率のなか、時間当たり賃金は上昇

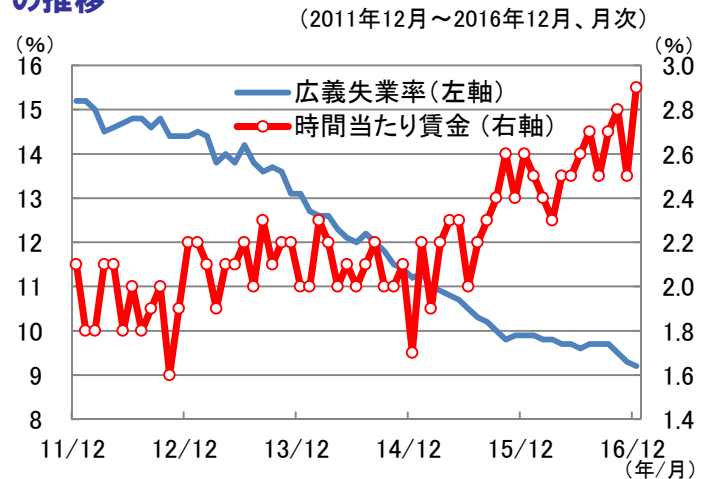


- 12月の米雇用統計が発表され、非農業部門雇用者数は前月比15.6万人の増加と市場の予想はやや下回ったものの、年間では6年連続で200万人を超える雇用が創出されるなど米国の労働市場は順調に拡大しています。なお失業率は前月よりやや悪化しましたが、求職者が増加したことによるものです。また、広義失業率*を見ると、9.2%と2008年4月以来の水準に低下しています。
- 時間当たり賃金は前年同月比+2.9%となり、2009年6月以来、約7年半ぶりの高い伸び率となりました。このような賃上げ圧力の高まりがインフレ指標にどの程度波及してくるかが、今後の米国の利上げペースを見極めるうえで重要な鍵になると言えそうです。

<今週の米国注目イベント>

- 1/11: トランプ次期大統領記者会見
- 1/13: 小売売上高(12月)

■米国の広義失業率*と時間当たり賃金(前年同月比)の推移



* 広義失業率: 経済悪化でパートタイム就労を余儀なくされている労働者や職探しをあきらめた人などを含む失業率のことで「不完全雇用率」ともいう。

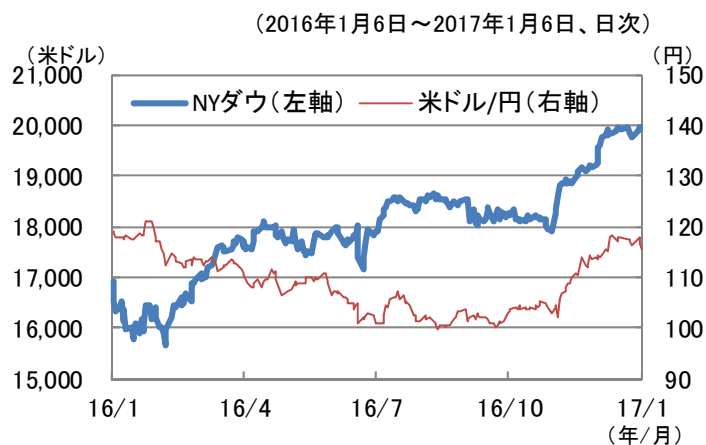
Market

先週(1/3～1/6)の米国市場動向

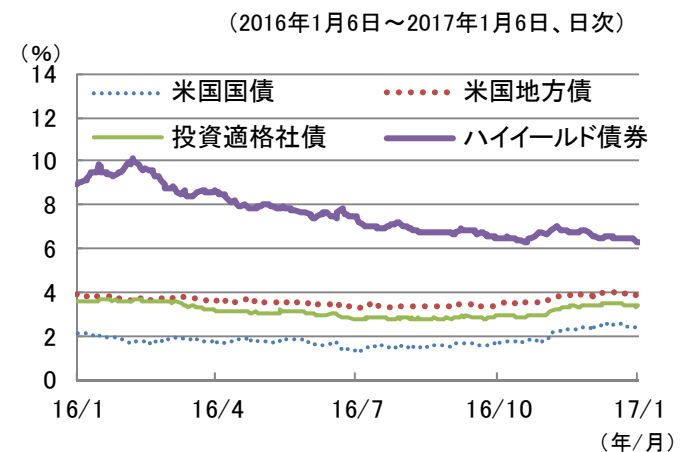


- 【株式】 NYダウは、上昇しました。米次期政権の政策に対する期待が根強かったほか、製造業景況感や雇用関連指標の改善が買い材料となりました。
- 【金利】 米ドル建債券市場では、利回りは概ね低下(価格は上昇)しました。11月以降金利上昇ペースが速く、米国国債先物の売りも積み上がっていたことから、利益確定目的の買い戻しなどで利回りがやや低下しました。
- 【為替】 米ドル/円は、円高・米ドル安となりました。12月のFOMC(米連邦公開市場委員会)の議事要旨で米ドル高が米国の景気、物価の回復を抑制する可能性が指摘されていたことなどから、米ドルへの売りが強まりました。

■ NYダウ(米ドルベース)と米ドル/円レートの推移



■ 各米ドル建債券の利回り推移



【当資料で使用している指数について】

米国国債: 米国10年国債、米国地方債: S&P米国地方債インデックス(課税債)、投資適格社債: BofAメリルリンチ・米国事業債インデックス、ハイイールド債券: BofAメリルリンチ・US・ハイイールド債券インデックス

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

当資料は、三井住友トラスト・アセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではなく、証券取引の勧誘を目的としたものでもありません。当資料のお取扱いについては最終ページをご覧ください。

【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。